

## 協働相互評価シート

No.	3	協働先記入者名	いこまち宣伝部10期生 榊田 栄作	
事業名	都市イメージ形成事業		担当課	広報広聴課
協働の形態	【協働】事業協力による協働			
事業概要	プロモーションサイト・SNS「グッドサイクルいこま」を中心に、市民PRチーム「いこまち宣伝部」と協働した情報発信を行う。また、いこまち宣伝部やいこまちマーケット部を通じて、事業参加者の地域に関わる意欲(推奨・参画・感謝)の向上を図る。			
協働のパートナー	市民PRチーム「いこまち宣伝部」、いこまちマーケット部			
令和7年度の実施	①実施予定	実施しない理由		

	行政の意見	協働相手の意見
協働における課題・評価(効果や相手に求めることなど)	協働相手とは、柔軟なコミュニケーションにより良好な関係性を構築している。オンラインによるコミュニケーションが主だが、対面による交流の場も活用しながら、協働相手のモチベーションアップや連携強化を図り、効果的な結果を目指したい。	事業参画を通して街に出ることが増え、街の中での繋がりも広がり、更なるシビックプライドの醸成に繋がっていると感じる。
事業の今後の継続意向とその理由	引き続き市民と協働した情報発信を行い、まちの魅力を市内外に届けるとともに、まちづくりへの共感を広げていく。	10年続いた本事業を継続・発展させながら、市役所と市民の協働を更に強化してほしい。市民一人一人の生駒の「好き」をより多くの方に広め、共感と誇りを高める活動を継続してほしい。

協働を進める際のルール		評価点		
		行政	協働相手	評価点差
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができたか。	5	5	0
目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。	4	5	1
対等な関係	お互いに上下の立場ではなく、パートナーとして対等に意見交換や議論を行う関係を築けたか。	5	5	0
情報公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく市民へ情報発信することができたか。	4	5	1

## ※評価点の基準について

1点	できなかった
2点	あまりできなかった
3点	どちらともいえない
4点	少しできた
5点	できた

## 評価点の理由記載欄

行政	行政と協働相手は柔軟にコミュニケーションが取れている。一方で、協働事業の参加者同士の交流が少ないため、交流の機会を作る等の工夫が必要。
協働相手	事業参画にあたり市民ができる限り負担なく、また楽しんで発信ができるよう細かな配慮とさまざまな機会を設けていただいた。

## ※評価点差について

協働相手の評価点から行政の評価点を差し引いて、その差を算出する(※協働相手の評価が未記入の場合は「評価未提出」とし計算しないこととする)

## 協働相互評価シート

No.	4	協働先記入者名	いこま国際交流協会 岡山真知子	
事業名	多文化共生事業の推進		担当課	人権施策課
協働の形態	【協働】事業の企画・実施過程における協働			
事業概要	<p>令和5年10月末現在で生駒市の外国籍市民は過去最多となっており、本市の多文化共生事業について更なる取組を進める。</p> <p>①国際交流事業▶いこま国際Friendshipフェスタ                  ②各種多文化共生事業▶市民交流(講座・講演会等)▶教育連携(出前授業等)▶市民協働(日本語教室、地域での国際交流の推進等)                  ③行政サービス((多言語通訳システムの導入、職員向け災害時外国人支援研修)</p>			
協働のパートナー	NPO法人いこま国際交流協会ほか			
令和7年度の実施	①実施予定	実施しない理由		

	行政の意見	協働相手の意見
協働における課題・評価(効果や相手に求めることなど)	<p>生駒市国際化基本指針の策定にも関わっていただきなど、長年、本市国際化の推進に尽力されており、経験豊富で専門的知見も深く、信頼と実績のある団体です。</p> <p>本市の国際化・多文化共生事業を推進する地域住民のリーダー的な存在として、事業を通して繋がった多様な方々と交流を深め、協力関係を築いていただきたいと考えています。</p>	<p>2年目の事業ということもあり打ち合わせなどもほぼなく、企画や準備、後片付けなどは担当課中心にすすめていただき、大きな問題も無く実施されました。</p> <p>協働をより深めるためには、時間は必要ですが参加団体間で生駒市の国際化や多文化共生についての現状認識、事業の目的の共有化などの機会を持つことを提案します。</p>
事業の今後の継続意向とその理由	<p>今後、外国人住民の人口増加が見込まれる中で、当該団体が培われた知識と経験は、本市の多文化共生を推進していくうえで必要不可欠であります。</p> <p>引き続き協力して様々な取組を進めていきたいと考えています。</p>	<p>在住外国人や外国にルーツをもつ人口は急速に増加しています。国際交流や多文化共生事業の重要性が高まっていくのは間違いありません。</p> <p>こうした取組は、1、2回でその効果を期待できるものではなく、継続することが大切だと考えます。</p> <p>私たちの協会は、今後もこうした事業に協力させていただきたいと考えています。</p>

協働を進める際のルール		評価点		
		行政	協働相手	評価点差
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	4	1
目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。	4	4	0
対等な関係	お互いに上下の立場ではなく、パートナーとして対等に意見交換や議論を行う関係を築けたか。	3	4	1
情報公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく市民へ情報発信することができたか。	3	3	0

※評価点の基準について

1点	できなかった
2点	あまりできなかった
3点	どちらともいえない
4点	少しできた
5点	できた

評価点の理由記載欄

行政	行政側の知識や経験が浅く、相互理解を図ることが難しかった。目的を一にして取組を進めるために、今後も事業を通して積極的な協働が必要と考えます。
協働相手	数字で評価することは困難ですが、今後の事業の方向性を見定めるためにも、参加団体間でも事業の評価や総括は必要だと考えます。

※評価点差について

協働相手の評価点から行政の評価点を差し引いて、その差を算出する(※協働相手の評価が未記入の場合は「評価未提出」とし計算しないこととする)

## 協働相互評価シート

No.	19	協働先記入者名	社会福祉協議会
事業名	生活困窮子育て世帯への食料品等の配布	担当課	地域共生社会推進課 (R6は福祉政策課)
協働の形態	【協働】事業協力による協働		
事業概要	生活困窮子育て世帯(児童扶養手当対象世帯 約650世帯を想定)のうち希望世帯に対し、食料品や文房具など寄付等で寄せられた物品を定期的に届け、困窮世帯への直接支援及び子育て世帯の見守りを行うもの。現在、社会福祉協議会が、市のフードドライブ、県社協や、フードバンク奈良からの提供物、企業・事業所からの寄付などの食料品等を生活困窮子育て世帯に配布する事業を定期的に行っているが、利用世帯が少ないことや、作業場所、人員、配布方法などの課題を抱えていることから、これらの課題解決を支援することで、より多くの生活困窮子育て世帯に食料品等を届け、併せて世帯の見守り活動を行う。		
協働のパートナー	生駒市社会福祉協議会		
令和7年度の実施	①実施予定	実施しない理由	

	行政の意見	協働相手の意見
協働における課題・評価(効果や相手に求めることなど)	社会福祉協議会が実施するフードパントリーや学用品配布の取り組みについて、周知や広報の連携を実施した。また、市環境保全課が実施しているフードドライブで回収した食料品を提供し、食料費の確保に協力した。 引き続き、対象者へ必要な支援が届くようにさらに効果的な食料品、リユース品配布の取組を展開していただきたい。	協働により、配布の周知等について行政の広報やSNS関係を活用し、広げることができた。 今後は、学用品のリユース事業についても、作業場所や配布方法について協議、協働を求めている。また、フードドライブ活動の啓発について提案を貰い実施することができている。
事業の今後の継続意向とその理由	生活困窮世帯への制度によらない個別支援は非常に重要であるため、その役割を担う社会福祉協議会との連携は引き続き継続する。	行政のサポートもあり、成果も出ているので、今後も一緒に進めていきたい。

協働を進める際のルール		評価点		
		行政	協働相手	評価点差
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	4	0
目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。	4	4	0
対等な関係	お互いに上下の立場ではなく、パートナーとして対等に意見交換や議論を行う関係を築けたか。	5	5	0
情報公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく市民へ情報発信することができたか。	4	4	0

### ※評価点の基準について

1点	できなかった
2点	あまりできなかった
3点	どちらともいえない
4点	少しできた
5点	できた

### 評価点の理由記載欄

行政	定期的な意見交換等により、社会福祉協議会との密な連携体制が構築できている。
協働相手	担当者間の意見交換ができているので、今後も信頼関係を深めていきたい。

### ※評価点差について

協働相手の評価点から行政の評価点を差し引いて、その差を算出する(※協働相手の評価が未記入の場合は「評価未提出」とし計算しないこととする)

## 協働相互評価シート

No.	26	協働先記入者名	萩の台住宅地自治会 山口 隆、山下 博史	
事業名	グリーンスローモビリティ導入検証事業	担当課	防犯交通対策課	
協働の形態	【協働】事業協力による協働			
事業概要	<p>高齢化が進む地域での移動手段の確保により、市民の日常生活における活動機会を保障するため、低速の小さな移動手段「グリーンスローモビリティ」の導入を図る。</p> <p>導入にあたり、まちのえき「こみすて」等の地域活動、脱炭素に向けた取組、ニュータウン再生・再編を進めている、「萩の台住宅地」をモデル地区として実証運行を実施し、利用が伸び悩む既存コミュニティバスとの比較検証を行い、地域における最適な交通手段を模索する。</p> <p>多様な主体との連携を図りながら、地域主体の持続可能な運行体制を構築し、地域特性に応じた地域内移動の仕組みを構築する。さらには、同様の課題を抱える地域への横展開の可能性について検証を進める。</p> <p>※グリーンスローモビリティ:時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービス</p>			
協働のパートナー	自治会			
令和7年度の実施	①実施予定	実施しない理由		

	行政の意見	協働相手の意見
協働における課題・評価(効果や相手に求めることなど)	地域主体で安定的なほぎくる運行を通じて地域コミュニティの醸成に努めていただいている。今後も情報共有を密にしながら取り組んでいきたい。	手探りの状態で運行ルートやダイヤ編成をしているが適宜変更し、改良して行きたいので一緒に協力してもらいたい。利用者のはぎくる継続を願う声やスタッフと乗り合わせた乗客の会話が弾むことに思わぬ効果が認められた。
事業の今後の継続意向とその理由	運転手・添乗員の方に高齢な方が多く、高齢化率が約50%という萩の台住宅地の人口分布の特性もあり、今後も長期的に運行を継続していくためには人材確保が課題と考えられる。	現状の支援がある限り、事業継続したいが、スタッフも高齢者ばかりで、60歳代が少ないという特性もあり、今後のスタッフの確保に苦慮している。地域住民も継続を切に望んでおり、現スタッフもやりがいを感じている。

協働を進める際のルール		評価点		
		行政	協働相手	評価点差
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができたか。	5	5	0
目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。	5	5	0
対等な関係	お互いに上下の立場ではなく、パートナーとして対等に意見交換や議論を行う関係を築けたか。	5	5	0
情報公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく市民へ情報発信することができたか。	4	5	1

※評価点の基準について

1点	できなかった
2点	あまりできなかった
3点	どちらともいえない
4点	少しできた
5点	できた

評価点の理由記載欄

行政	相互理解、目的共有、対等な関係については十分に取組んでいる。情報公開にも努めているが、地域が限定される取組みのため、市民全体には広まっていない部分もある。
協働相手	同上、情報公開について地域内では自治会だけで発信している。また、市内に限らず、同取組みに注目し、見学に来られた地方自治体・私的団体等との情報交換を通じ互いの問題点を検証し、市との協働の推進に役立っている。

※評価点差について

協働相手の評価点から行政の評価点を差し引いて、その差を算出する(※協働相手の評価が未記入の場合は「評価未提出」とし計算しないこととする)

## 協働相互評価シート

No.	29	協働先記入者名	生駒駅南口エリアプラットフォーム 事務局 北波	
事業名	生駒駅南口公民連携まちづくり推進事業		担当課	都市づくり推進課拠点形成室
協働の形態	【協働】委託契約に基づく協働			
事業概要	「生駒駅南口みらいビジョン」の「めざす将来像」を実現するため、公民連携で生駒駅南口周辺の都市空間再編に向けた取組を推進しながら、APFの令和10年度の自立自走を目指す。また、地区計画等の規制・誘導施策の導入を検討し、多様で魅力ある都市機能の立地誘導と魅力あるまちなみ空間の形成に加え、歩きたくなる環境の充実(ウォークラブルな空間形成)を図る。			
協働のパートナー	生駒駅南口エリアプラットフォーム			
令和7年度の実施	①実施予定	実施しない理由		

	行政の意見	協働相手の意見
協働における課題・評価(効果や相手に求めることなど)	APFの自立自走に向け、具体的な事業の企画・提案を行う事業者等を受け入れる体制を整えた。一方で、当初から参画している運営会員と事業部会の関係性やそれぞれに求めることについて、認識の共有・整理を進めていきたい。	行政との協働により、事業部会が行う道路など公共空間を活用した事業(音楽イベント)や情報発信を円滑に進めることができている。
事業の今後の継続意向とその理由	公民連携で生駒駅南口周辺の都市空間を再編するためには、APFの自立自走が不可欠であるため、自主財源の確保など必要な検討を進めたい。	事業資金等は市からの補助金により賅っている状況であるため、今後は、自立・自走に向けて自主財源の確保などを検討していく必要がある。

協働を進める際のルール		評価点		
		行政	協働相手	評価点差
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができたか。	5	4	1
目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。	5	5	0
対等な関係	お互いに上下の立場ではなく、パートナーとして対等に意見交換や議論を行う関係を築けたか。	5	5	0
情報公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく市民へ情報発信することができたか。	4	4	0

### ※評価点の基準について

1点	できなかった
2点	あまりできなかった
3点	どちらともいえない
4点	少しできた
5点	できた

### 評価点の理由記載欄

行政	相互理解、目的共有、対等な関係については十分に取組んでいる一方で、APFの認知度など未だ課題が残る。今後、新設したSNS、市の媒体からの発信など駆使し、周知を図っていきたい。
協働相手	目的共有、対等な関係については十分に取組んでいる一方で、相互理解、情報発信については改善シロがあるように感じる。特に情報発信はさらに尽力することが必要。

### ※評価点差について

協働相手の評価点から行政の評価点を差し引いて、その差を算出する(※協働相手の評価が未記入の場合は「評価未提出」とし計算しないこととする)

## 協働相互評価シート

No.	40	協働先記入者名	生駒音楽芸術協会 副会長 山中 泰子	
事業名	「音楽のまち生駒」推進事業		担当課	生涯学習課
協働の形態	【協働】委託契約に基づく協働			
事業概要	<p>公募提案型の「市民みんなで創る音楽祭」や市民吹奏楽団を中心とした吹奏楽事業等により、市民との協働で「音楽のまち生駒」を推進し、音楽文化の担い手の拡大や、文化芸術を通じた本市の魅力向上を図る。</p> <p>調査該当事業のリベラルコンサートにおいては、「生駒市民文化祭」の一事業として、行政が広く市民に事業の参加及び観覧を呼びかけ出演者の公募を行い、協働相手である生駒音楽芸術協会に企画運営及び説明会・反省会の開催をお願いし、役割を明確に切り分けて、共同開催している。</p>			
協働のパートナー	生駒音楽芸術協会			
令和7年度の実施	①実施予定	実施しない理由		

	行政の意見	協働相手の意見
協働における課題・評価(効果や相手に求めることなど)	<p>協働相手とは年度を重ねるごとに強固な信頼関係を築きあげ、順調に進行している。特に情報共有においては、1営業日以内の迅速な回答を心掛け、かつ過不足の無い報告内容を主にメールや文書を活用しながら、共有内容の齟齬の無いように工夫している。</p> <p>良好な関係故、主だった課題は無いが、昨今の各種手続きの電子化に伴い、協働内容の変革は必要と感じている。</p>	<p>生駒市生涯学習課との協働は、情報共有および意思疎通の面において極めて円滑であり、信頼関係に基づいた協働体制が構築されている。相談事項に対する対応も迅速かつ柔軟で、円滑な事業運営につながっている。</p> <p>現時点において顕在化した大きな課題は見当たらないが、事業の成果や開催報告については、今後ウェブやSNS等を活用し、市民および協会会員へより広く、分かりやすく共有していくことが課題である。</p>
事業の今後の継続意向とその理由	<p>「生駒市民文化祭」の一事業として令和6年度で開催71回を迎え、市民にとって日頃の成果発表の貴重な場として必要不可欠な事業となっているため、今後も継続の意向。</p> <p>協働相手の生駒音楽芸術協会においては、現会長の次世代を担う人材にも恵まれ、今後の協働継続にも期待が持てる。</p>	<p>本事業は、市民一人ひとりの生き甲斐やライフワークとして音楽活動を支えるとともに、生涯学習・世代間交流・地域文化の継承を実現する重要な役割を担っている。71回の継続によって築かれた信頼と価値を次世代へつなぐためにも、今後も継続する意義は大きいと考える。</p>

協働を進める際のルール		評価点		
		行政	協働相手	評価点差
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができたか。	5	5	0
目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。	5	5	0
対等な関係	お互いに上下の立場ではなく、パートナーとして対等に意見交換や議論を行う関係を築けたか。	5	5	0
情報公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく市民へ情報発信することができたか。	4	4	0

### ※評価点の基準について

1点	できなかった
2点	あまりできなかった
3点	どちらともいえない
4点	少しできた
5点	できた


### 評価点の理由記載欄

行政	相互理解、目的共有、対等な関係については十分に組み立てられており、情報公開についても十分に実施しているが、時代に合わせて更に実行できる公開方法を協議・検討し改善を加える余地があると考えます。
協働相手	常に行政との間で情報共有が綿密に行われているため、同様の課題意識を共有できている。

### ※評価点差について

協働相手の評価点から行政の評価点を差し引いて、その差を算出する(※協働相手の評価が未記入の場合は「評価未提出」とし計算しないこととする)

## 協働相互評価シート

No.	46	協働先記入者名	獅子ヶ丘自治会 会長 林 修司	
事業名	複合型コミュニティ「まちのえき」づくり		担当課	地域コミュニティ推進課
協働の形態	【協働】事業の企画・実施過程における協働			
事業概要	地域課題の解決、日常的な外出機会の創出、多世代交流等を目的として、集会所や公園などの歩いて行ける範囲の拠点において、新たに場づくり活動を行う市民活動団体(自治会等)に対して補助金を交付することにより、活動のスタートアップ支援及び継続的な伴走支援を行う。 市HP→ <a href="https://www.city.ikoma.lg.jp/0000039216.html">https://www.city.ikoma.lg.jp/0000039216.html</a>			
協働のパートナー	16自治会(令和6年度時点) (萩の台住宅地自治会、ひかりが丘自治会、ローレルコート萩の台自治会、さつき台南自治会、鹿ノ台北1～3丁目自治会、西菜畑町自治会、北小平尾自治会、白庭台自治会、生駒台自治会、小瀬町自治会、獅子ヶ丘自治会、東菜畑1丁目自治会、鹿ノ台東2丁目自治会、軽井沢町自治会)			
令和7年度の実施	①実施予定	実施しない理由		

	行政の意見	協働相手の意見
協働における課題・評価(効果や相手に求めることなど)	本事業は明確な役割分担のもとで実施されており、まちのえきの企画・運営は自治会が、自治会の伴走支援・情報提供・補助金の交付は市が行っている。自治会がまちのえきの企画・運営を担うことで、地域の実情や課題に即した取組を行うことが可能となっている。 獅子ヶ丘自治会のまちのえきでは、地域住民ならではの発想を生かした独自のイベントが多数実施され、住民同士の交流の場となっている。これらのイベントは行政主体では実施が難しいものであることから、本事業を協働という手段で行ったことは、一定評価できると考える。	市との協働により獅子ヶ丘の地域的魅力や住環境の良さを内外に発信することが出来た。若い移住者増加を促進し更なる発展と人口増加を望みたいが、現状の居住者高齢化に対しても何らかの方策を講じたい。現代の抱える諸問題に対応するモデルケースとなるべく積極的に活動していく所存なので、今後も市と協働し、事業に取り組んでいきたい。
事業の今後の継続意向とその理由	今後も地域内で発生する課題の解決に向け、まちのえきづくりを継続して進めていく必要があるため、本事業は引き続き実施する。 また、まちのえき未実施自治会についても、獅子ヶ丘自治会の取組を参考に、まちのえきづくりへ参画してもらえよう、次年度は同自治会の取組をサイト等で情報発信していきたい。	現時点では子供人口は少ないが、敢えてそこに注力して情緒教育に効果のある街づくりを進める。また高齢化、独居化については子供食堂的な枠組みで、いわゆる「ぼっち化」させない取組を行うべく自治会館食堂を来年度改修することにした。これにより街ぐるみで取り残しのない安心を住民に享受して貰いたい。

協働を進める際のルール		評価点		
		行政	協働相手	評価点差
相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができたか。	5	5	0
目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。	5	5	0
対等な関係	お互いに上下の立場ではなく、パートナーとして対等に意見交換や議論を行う関係を築けたか。	4	5	1
情報公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく市民へ情報発信することができたか。	4	5	1

### ※評価点の基準について

1点	できなかった
2点	あまりできなかった
3点	どちらともいえない
4点	少しできた
5点	できた

### 評価点の理由記載欄

行政	協働における課題・評価にも記載した通り、相互理解や目的共有は十分にできたと考える。次年度以降は、改めて意見交換の場の設定や市内外への情報発信を重点的に行っていききたい。
協働相手	常に前向きに住民のことを思っていて頂き、感謝ではない。それに応えることが出来るように自治会として準備したい。

### ※評価点差について

協働相手の評価点から行政の評価点を差し引いて、その差を算出する(※協働相手の評価が未記入の場合は「評価未提出」とし計算しないこととする)